

ほどよい田舎で ほっとかれたり かまわれたり

わざわざ行かないと辿り着けない(!) 置戸町…… どうしてここに巡りあったのか? ここでどんな出会いがあったのか?
どんな理由が置戸町への移住という選択をさせたのか—— 自分らしく豊かな暮らしを見つけた移住者へお話を伺いました。



case 01 結婚

ありま よしえ
有馬 芳枝さん

平成24年 岩手県奥州市 出身
〈家族構成〉夫、子ども2人、夫の両親・祖母
〈職業〉農業



「置戸においで」何気ないひとことが
新しい人生のはじまりでした

農 業関係の出版社の営業職として全道各地の農家さんを訪問していました。将来のことを考えていたときに訪れた置戸町で、農家の方から「置戸においで」と温かい言葉をいただき、町外の人でも快く受け入れてくれる印象が強く、移住を決意しました。移住後は町内の農家さんをまわり農業を手伝い、充実した日々を過ごす中、農家の夫と出会いました。広大な土地での畑作業は苦労もありますが、自然の恵みに感謝しながら家族で暮らしています。小さな町だからこそ、子育てに関しても目が行き届いており、支援制度が充実、些細なことも気にかけてもらえ、安心して子どもを育てることができます。



case 02 起業

まつもと よしのり
松本 佳悟さん

平成27年 大阪府高槻市 出身
〈家族構成〉妻、子ども3人
〈職業〉木工職人



“木”が導いた軌跡
木工芸に自らの表現力を活かして

グ ラフィックデザイナーとして会社員生活を送っていましたが、30歳を過ぎてアイヌの木彫りの世界へ。数年後、結婚を機に製作の場は旭川家具へ移り、さまざまな行程に携わることで、モノづくりの楽しさ、自分ですべての作業を行うことへの思いが強くなった頃、「オケクラフト作り手養成塾」を知り、家族で移住しました。技術を学んだ後、市街地から少し離れた地区で、ついに自分の工房を開業。置戸町は自然にあふれ、モノづくりに適した環境です。工房には子どもも遊びに来て作業姿を見せられます。技術を惜しみなく伝承してくれる制度で受けたバトン。私も後世につなげていけたら嬉しいです。

理由ありの移住者たち